

## マイクラフト



あおきかいせい  
青木楷征さん

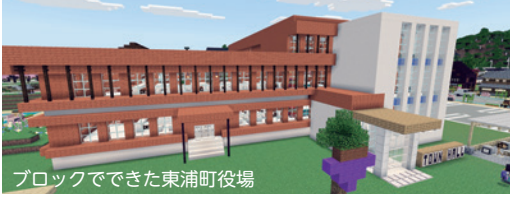
こばやしゆうほ  
小林由歩さん

ほまぐさくたろう  
濱口朔太郎さん

こばやしそなた  
小林奏太さん

### チーム おもいでひがしうら

#### Minecraft(マイクラフト)とは



ブロック(積み木)でできた世界で、自由に生活や冒険を楽しむゲーム。木や石などの材料を集めてまちや建物をつくるなど、遊び方は無限大。最近では、楽しみながら学べるゲームとして、教育に特化した「教育版 Minecraft」が学校でも活用されている。



の観光資源で地域交流を図る。ぶどう園も制作したほか、二酸化炭素を活用する施設など、未来の環境問題にも真つ向から向き合った。  
大変だったところはどこか。メンバーそれぞれが、建物やエリアで分担して制作にあたったが、どうしても進捗にばらつきが出る。そのため常に進捗を共有し、お互いをサポートしあつて、何とかまちを完成させたという。  
前回大会では上位入賞を逃し、悔しい結果に終わったが「今年こそはカップを」と目標を掲げて挑戦した今回。「レベルの高い作品が揃う中で最優秀賞を獲れてとてもうれしい」と振り返る。

令和8年2月、「教育版 Minecraft」で大会テーマに沿ってまちや建物をつくるデジタルものづくり大会「第7回 Minecraft カップ」の全国大会が開催された。最優秀賞を獲得したのは、理想的な東浦町を作り上げたチーム「おもいでひがしうら」だった。  
チームメンバーは町内在住の4名を含む8名の小学生。地元のプログラミング教室で、マイクラフトに興味がある人たちで仲良くなり結成したという。「大人になつても住んでよかったな」と思い出せる東浦町を作りたかつた」とチーム名の由来について話す。

上げたのは、「地域交流」と「人ひとりの防災・減災意識の向上」を意識した未来の東浦町の姿だ。作品づくりのため、町防災課に話を聞いたり、防災施設を訪れたりするなど、自分たちで情報収集に取り組んだ。「防災・減災を実現するには防波堤などの技術面だけでなく、一人ひとりの意識が重要だと思ひました。住民が互いに助け合える関係を構築する「地域交流」を最も大事にしました」と作品の全体像を話す。

まちのこだわりは随所に光る。プログラミングを駆使した「バーチャル災害体験施設」では、地震、火災、洪水などを体験できる。また、かつて存在した「緒川城」を復元し、城下町やお祭りなど

次回には別々のチームで活動する予定だが「楽しむことを第一に、それぞれのチームで勝ち上がつて、また全国大会の場で会うのが目標です」と今後について話す。

最後に「防災・減災は一人ひとりの意識が大切。各自で準備をしたり、互いに助け合えるように普段から近所の方などと交流したりするなど、災害への備えをしてほしいです」と呼びかけた。